

# 夏期研修(前期)トピックス

— S. 53年度 —

7月25日(火)から26日(水)にかけて、有楽町第一生命ホールにおいて、前期夏期研修全国大会が今年も開催された。酷暑にもかかわらず、全国各地から大勢のレスナーが訪れ、各講師の個性あふれる講座に熱心に耳を

傾けていた。

今回は、ロトー夫妻両氏、弘中孝氏、岩崎淑氏、嵐野英彦氏、館野泉氏の5名の講師を迎えて行なわれた。



「小さな手をいかにして  
広く使うかが問題ですね。」

## 「子どもの時から 正しいテクニックを」

アルバート・ロトー夫妻

今期最初の講座ということもあり、緊張した参加者を前にして、始終なごやかで仲睦い夫妻の講習は、場内のムードを明るくものにしていた。主な研修内容は、小さな子ども達に初めてピアノを教える時に大切な手の形、手首の力の抜き方を中心に進められたが、先生の言われる通りに前席の椅子をピアノがわりに押さえ、参加者は真剣な表情で耳を傾けていた。また途中では、余興としてお二人の連弾が入り、息の合った素晴らしい演奏に参加者は満足気な様子であった。

## 「ロマン派の中のブラームス」

弘中 孝氏

開口一番、「簡単にOKしたけれど、こんな立派な会場で、こんなふうにビシッと坐られて聞かれるとは思ってもみませんでした。」と言われながら、親しみやすく話しかける調子に参加者はひきつけられていった。

講座内容は、「ブラームスのピアノ曲」「ブラームスの音楽表現」で、モーツァルト、ベートーベンなどの曲とブラームスの曲の違い、また、ブラームスの曲の特色として、呼吸、フレーズ、色あいなどを取り上げながら、お話を展開された。



「ブラームスの曲は、心からにじみ出た、  
いわば詩のようなものです。」



「音楽の楽しみは、アンサンブルにあると思います。」

## 「音楽のよろこびをお友だちと」

岩崎 淑氏

我が国を代表するアンサンブルピアニストである岩崎先生の講座は、先生らしいテンポのある、歯切れのよい調子で進められた。

今回は、声楽とピアノ、ピアノ・フルート・チェロの2組のアンサンブルを例にとり、非常に丁寧なレッスンで参加者を魅了していた。声楽とピアノのアンサンブルでは、いかに歌いやすく伴奏するか、またピアノトリオでは、ひとりひとりの主題をいかにして調和させるか、ということを中心に、御自分の御経験なども混じえながらお話し下さった。

## 「幅広い音楽教育を」

嵐野 英彦氏

「幅広い音楽教育を」と題する嵐野先生の講座は、まず御自分のお仕事の経験談から始まり、ユーモアたっぷりのお話で、場内はリラックスした雰囲気包まれた。

終始子供の持っている素材の素晴らしさ、その素材を自然に出させることのむつかしさを強調され、子供達の秘めた才能をつぶすことは罪悪ではないでしょうか、とも言われ、うなづいている参加者も多かった。



「小さな子供達は素敵な素材です。」



「シベリウスは、ピアノを持って新婚旅行に行ったそうです。」

## 「フィンランドの音楽について」

館野 泉氏

館野先生の講座は、4名のレッスン希望者を迎え、公開レッスン形式で展開された。

フィンランドの気候風土などを詳しくお話しになり、そこからフィンランド音楽の特徴を説明して下さるなど、研修内容は興味深いものであった。

4名のレッスン希望者も、最初、緊張の色はかくせなかったが、館野先生の静かな語り口調にうまくリードされ、リラックスしたムードでレッスンを受けていた。シベリウスの「もみの木」を全員演奏したが、先生の御指導は丁寧で、期待を十分満足させて下さるものであった。

夏期研修会(前期)より

# 子供の時から 正しいテクニックを

アルバート・ロトー夫妻



## ★ジュリアード音楽院について

こんにちは、美代子・ロトーです。今日は公開レッスンに入る前にジュリアードの話をしておきたいと思います。ジュリアードという名前ですが、大変な財閥でジュリアードという人がいて、これは、モーツァルト、ベートーヴェンという様な音楽に関係のある優雅な名前ではなく、たとえばロックフェラー音楽院と同じようなものです。1969年にリンカーンセンターに移りました。工事には8年以上の歳月がかかりました。というのは、途中で資金が切れてしまったために工事がそこで中断されたり、5階まで建てた時にくずれてしまったり、いろいろなアクシデントに見舞われたからです。しかし、つい先月自動車事故で亡くなられた、ジョン・D・ロックフェラーという方の御尽力で完成したわけです。最初7千5百万ドルぐらいの資金で始めたのですが、結局1億8千5百万ドルになってしまいました。その穴埋めをロックフェラー自身がしたり、他から出させたりして、結局8年以上の歳月がかかったのです。

リンカーンセンターは、マンハッタン の西側の65丁目とブロードウェイにあります。その中にメトロポリタンオペラ劇場とか、フィッシャーホールシティーセンター、バレエとオペラの劇場とかアリスタリーホールというリサイタルホール、ピリアンボーンアンティー劇場、図書館、プラスバンド用の野外劇場、そして、ジュリアード音楽院があります。

ジュリアードは、とても大きくて立派なビルです。とても広くて、初めは慣れない生徒がうろろろしたり、また自分のスタジオがわからない先生がとまどったり、とにかく広い所です。地下3階まであり、上は5階までです。ジュリアードの音楽の他にバレエとドラマがあり、一緒に一つのビルで暮らしています。地下3階のうち1階はバレエとオペラの大道具が置いてあり、道路のレベルには、ジュリアードシアターというコンサートホール

があります。その次の1階には、パイプオルガン付きのリサイタルホールがあり、4階にはドラマの人達のための劇場があり、ホールを結局3つ持っていることとなります。2階は事務所とかレコーディングのスタジオで、3階はダンスとオーケストラの練習場、そして4階には練習室が100近くあり、スタインウェイのグランドが入っています。5階は、オルガン専攻の人達のための練習室があります。その他実技の先生方のスタジオとクラスルームがあり、大きな図書館とレコード鑑賞室もあります。ピアノ科の先生達の部屋には全部2台ずつ、大きなグランドが入っていて、楽に30人から40人が入れる広さを持っています。その他、弦や声楽の先生達の部屋も20人は坐れます。それでもいろいろ工事の面で失敗がありました。例えば、練習室を作る時に空気のベントを忘れてしまい、お互いのピアノの音が全部聞こえてくるということがありました。急ぎょビロードのカーテンを全室に備えつけて、何とか対処したそうです。またカフェテリアに煙突をつけ忘れるというミスもありました。そのため、料理が出来ず、あたためる程度の事しかできません。またドアが非常に重く、ドアマンが必要なくらいです。その他、広すぎて警備が大へんなんです。そのため最近では、写真入りのカードを見せなければ中に入れなくなりました。最初の頃はひどくて、トラックを横付けにしてピアノを2〜3台持っていかれたり、ドラマのセットなどもたくさん盗まれたそうです。それで正門を全部しめて、裏門だけ使えるように、今ではしています。

生徒の数ですが、プリカナジという子供のための音楽教室の生徒を入れても1000人に満たないと思います。ピアノ科の先生方は、大学を入れても9人です。生徒の内日本人は、30名位です。この頃は韓国の方がとても多くて、日本人の倍はいらっしゃると思います。

先生方は、ほとんどジョセフ・レビン先生の生徒だった方やその系統が多く、大体ロマン派のバルティオーゾの系統の方達ばかりです。

今日はブリカナジのお話を少し詳しくしたいと思います。このブリカナジはできて約20年位になりますが、そもそも最初の頃は近所の子供達に音楽に触れさせる機会を与えるという意味のもとに作られたものです。先生も生徒も多く、レベルも低かったのですが、69年にリンカーンセンターに移る時に、10人の先生を選び、生徒も75人に絞りました。従ってレベルはこの時点でかなり高いものになったわけです。今は、アプリカレッジで100人位いますが、土曜日、実技、作曲、楽典などを学ぶことができます。

子ども達は12才でレベルを分け、12才までは子どものレベル、13才以上は大人のレベルにさせています。12才までの子ども達は一応、ソナチネ、インベンションのレベルが弾ければ、どんなに小さくても入れます。しかし13才以上はややむずかしくなりますが、それでも大学に入るよりもたやすく入れます。大学に入るのは非常にむずかしく、ブリカレッジに入っているのもその20%ぐらいしか大学に進めません。また、ジュリアードでは生徒の数がどんどん増えていくのを防ぐために、5、6年に一度大きな寄附がきた時、試験を厳しくして入学を止めてしまうことがあります。

私達の先生はゴロニツキー先生という、キエフ生れのロシア人で、ジョセフ・レビン氏につき、30年以上教本を取っていらっしゃる方です。ロマン派のものを深く御研究されており、現代音楽などはあまりお好きでないようです。彼の生徒の中には、モスクワで2位に入ったアンドレ・ラブラント、カナダの男の子ですが、その子や、数年前、ショパンコンクールで1位になったギャリクオルスン、また日本人では宮沢明子さん、弘中孝さん、寺田いつ子さん、渡辺やすお君などがいます。

ゴロニツキー先生の指導内容の一番のポイントは音の質、特にホールでの演奏の際の音の響き、レガート、息の長いフレーズ、テンポの統一、このようなことに重点が置かれています。

### ★テクニックとは

アルバート・ロトーです。今日はテクニックのことにしてお話ししてみようと思います。

まず初めに小さい子が自然に持っている素質というものについて考えてみましょう。素材として一番考えられるものは、やはり体の重さ、うでの重さです。音楽とは常に動くものですから、弾く方も一つの場所から次の場所に体を動かして行かねばなりません。ですから子供達にもまず初めにうでの重さ、体の重さについて教えるなければいけません。音楽とは動きがあり、音が出るものですから、体が固ければ固い音が出、リラックスしていればやわらかい音が出ます。もちろんそのためには、ピアノ

の構造について知っていなければなりません。ピアノの中にはジャックというものがあり、階段のようになっています。鍵盤が上下する時このジャックが作用するわけですが、上から下に落ちる時、まっすぐ落ちれば、それだけ合理的な音が出せるわけです。

まず、体の重さの使い方、ジャックをどうやって横切るか、ということについて始めたいと思います。

体の重さの使い方について、まず初めに考えることは、自分がどういうタイプの音を必要とするかということです。私達が一番やりたいと思っていることは、ピアノでもって歌えることではないでしょうか。それは皆さんどなたも考えられることだと思います。ピアノというのは結局打楽器です。硬い音を出すのは易しいのです。ゴロニツキー先生もおっしゃっていました。「ピアノは速い、だからその前に考えることが必要だ」だから、いろんなバラエティーの音がないとつまらないから、一番むずかしいのは歌える音ということになるわけです。ショパンのノクターンなどはいいですね。

今日の教材である、シューマンの「ハミング」、これは歌うのによく使われますが、右手単音ですし、早く感じが出ると思います。いつも私達感じることなのですが、子ども達の踏み台は、なるべく早く取り除いてあげて下さい。少しだけ腰掛ける程度でもよいと思います。坐った時重心が椅子にいつてもしまわないように、その重心をいかに鍵盤に持ってくるかということがむずかしく、また大切にしたいことだと思います。

まず腕の重心の正しいかけ方の練習方法として、力の抜けた腕をキーボードにのせる方法があります。この場合、親指は少しむずかしいので4本の指だけまず初めに置く練習をして下さい。うまくジャックを横切るためには、まず手首の力を抜くこと。それができるようになると、今度はキーボードの上からのせてみせて下さい。「ハミング」の上のメロディーの音ですが、歌うような音を出したいと思う時には、まず1つ1つの音の質を作する必要があります。そのためには、重さを落とした時、ある程度の手の形の訓練ができてないと、つまり、全部同じ形の音でなければ、音がつかまらないわけです。そうすると違う感じの質の音になってしまうわけです。

### ★力をうまくぬく方法

次に力の抜き方ですが、手首を使って力を抜くということです。これは、あやつり人形を扱う時と同じような手首の使い方をしますが、ただ単に力を抜くと、手の形がまるでなくなってしまいます。手の形を保つためには、甲の中がかなりしっかりしていなければなりません。よく小さい子ども達に手の形を教える時、全部関節を曲げるように指導しますが、もみじのように小さい子

どもの手を曲げると、ほとんど丸くなってしまい、3音ぐらいいか弾けなくなります。ですから、最初は少し平たくするようにさせます。うまくアーチを作るためには、5の指をまっすぐさせて下さい。5の指を曲げると、どうしても小さくなり、手が落ちやすくなります。親指も短いのでまっすぐさせて下さい。そうすると、丁度よいアーチ型になります。しかし、こうやって初めに指導しても、子どもというものは弾いている最中にまるで考えず忘れてしまうものです。その瞬間はできては次には忘れてしまいます。それをうまく指示してあげるのが私達の仕事ではないでしょうか。

教材の「ハミング」「兵士の行進」この二曲は対照的なので一度に見てみましょう。

1つ1つの単音に力を抜いてまず始めます。レガートなしに1つ1つの音を大切に練習をくり返し、それが充分できるようになると指を続けさせて下さい。そしてペダルを加えます。ペダルは足が届くようになると、できるだけ早く使わせた方がよいと思います。なぜかという、ペダルを使った音質というものを小さい頃から知らせることが大切だからです。音の響きを助ける働きとしてペダルを使わせ、又、ハーモニーでペダルをかえる練習も必要です。

初めは両手で弾かせて下さい。なぜならば、力を抜く練習は、両手でした方がやさしいからです。それができるようになったら伴奏をつけて下さい。指先の使い方ですが、クッションの厚い所、つめの先よりもちょっと平らな所の方が感触が敏感であり、そこを使った方がうたう音質をつくりやすいのです。また、面積も広いので、音の硬さがとれ、やわらかくなります。

子ども達に「兵士の行進」を弾かせますと必ずかたい音で弾こうとします。なぜなら「ハミング」はソフトであるけれど「兵士の行進」は、マーチでしかもフォルテであるからでしょう。子どものイメージーションを作るのによい方法があります。それは、ピアノで弾いていると思わせないで、オーケストラで弾いていると想像させることです。例えば管楽器は体中の筋肉を使います。ですから大きな音を弾く時、体全体を使って弾かせるようにします。これは、「ハミング」の時よりも手のアーチをしっかりと立て、手首も高くなります。同じ単音でも「ハミング」の時とは違います。しかし、手の形が違っても全部違うわけではありません。やはり体の重さを使って弾くのです。

「兵士の行進」はマーチですが、フレーズの形があるので、体をそれに反射させなければなりません。一番初めはほとんど腕をまっすぐに、だんだん上に上がっていくにつれて、体をEの音にめがけていくつもりで弾かせるのです。そして戻ってくるにつれて体をもとに戻しま

す。そうすれば、本当に微妙なクレッシェンド、デクレッシェンドまでがつきます。もう一度弾きますので、手の形、フレーズの形、体の形をよく見て下さい。

すごく大きい音ですが、7才の子どもが大人と同じように弾くには、あれだけの体の動きとエネルギーが必要なのです。上る時には、だんだん手が高くなり、それにつれて体もついていかねばなりません。

「兵士の行進」では、1つの単音のために重さを落とし、それがバウンドして元に戻る、ダブルドロップといいますが、それを使います。つまり音を下まで弾き、キーから指が離れないままに次を弾くのです。これは、まず単音で教えて下さい。それができるようになると2つの音に幅を広げていって下さい。

### ★質問を受けて ①

#### ——指の説明を詳しく——

この2曲に関して何か質問はありませんか。

質 「先程の指の説明をもう一度お願いします。」

まず初めに5本の指をキーの上に置きます。この時親指はまっすぐに真横、5の指は横ではなくてたてて使い、落ちないようにします。それに2、3、4の指を落とします。そうすると3の指からひじにかけてまっすぐになるはずですが、この手の形がしっかりできると、キーに指がくっついたまま手首の上下をさせる練習ができるのです。ただし、この練習は5分位でやめて下さい。あまり長すぎると変な所に力が入ります。余分の力の抜き方は親指でコントロールして下さい。親指の力を抜くと指全体の力は抜けます。

鍵盤は突くのではなく、押すのではなく、たたくということを忘れないようにして下さい。腕で弾かないように、指先を上げてたたくこと。また私達は指を強めるために指先を曲げようとしますが、あまり曲がりすぎると平等に力がかからなくなります。ちょっと平らにすると指全体に平等に重さがかかります。そして、腕の力を抜く時は下に抜いてから横に抜いて下さい。そうすると自然に肩の力が抜けます。

よく手が小さいからといってピアニストを断念されたという話をお聞きしますが、オクターブ届けば心配はないですね。小さな手をいかにして広く使うかということですが、私はジュリアードに行く前は、ほとんど10度は弾けなかったのですが、今ではできるようになりました。指というものは、真横に広げるよりも、横づたいに広げたものをまっすぐにすれば、やや広く使えます。私はこの訓練を何度もさせられました。

## ★御2人の連弾奏（写真右）

今日は余興としてですが、主人と連弾をしたいと思います。フォーレのドーリー組曲です。普段は、お遊び半分にしかななくて仕事としては初めてです。なぜなら、けんかばかりして、時間もないし、エネルギーの消もうも激しいからです。

——演奏——

## ★質問を受けて ②

他に質問はないでしょうか。

質 「ダブルドロップの効果と役目について教えてください。」

結局符点を強調することと、アーティキュレーション、つまりはっきりした音を出す、この2つが目的といえるでしょう。2回することを1回ですませる、1つの力で2つ弾くということですから合理的だとも言えますね。シューマンやスラブ系の人の音楽は符点がなければ成り立たないので欠かすことのできないものです。

質 「指がどうしても届かない子が仕方なく弾いているとどうしても無理ができてきますが、どうしたらよいでしょう。」

手の指の届かない子をオクターブ弾かせるためには、端っこで横に使わせて下さい。ゴロニツキー先生は、2の指をまわらせていらっしゃいました。そうすると、手が落ちないのです。

質 「アーチの形が完全にできるまでは、練習曲だけを弾かせた方がいいのでしょうか。」

練習曲にもいろいろありますから。主人などは練習曲が嫌いで、ショパンのエチュード、メンデルスゾーンのエチュードなどが弾けるまでは、モーツァルトのソナタとかベートーベンのソナタの終楽章とか、そういうものをテクニックのエクササイズ代わりに弾いていたそうです。

## ★質問を受けて ③

——ジュリアード音楽院について——

福田 ジュリアードに入るためには、レベルはどの位必要でしょうか。

L. 桐朋の高校に入れば80%大丈夫です。しかし、ジュリアードにも大勢先生がいらっしゃって、いい先生につくためには、それだけががんばらなければいけません。

福田 英語の力はどの程度必要ですか。



L. ゴロニツキー先生はそれ程語学力は必要とないません。なぜなら音楽を聞いていれば大体見当はつくからです。それ程気にする必要はありません。ただ、話せるようになってうれしそうですね、とおっしゃっていました。

福田 入学試験はいつあるのですか。

L. 3月と6月と9月です。3月の試験は、あきが多いので採り易いのですが、9月はほとんど定員一杯採っている後なのでよほどうまくないとだめですね。

それからゴロニツキー先生がおっしゃっていました。「女の子のピアニストに命をかけても損だね。結婚するまではいいけれど、子供が生まれるとダメだね。」やはり男の子がほしいようですね。

福田 ジュリアードでは、ある先生がとってくれるとおっしゃれば必ず入れますか。

L. 大体入れます。例えば、ゴロニツキー先生だと80人応募があつて8人とるとすれば、先生自身が10人ピックアップします。そして最終的にその10人の点数を学長に渡し、他の先生のコメントなどを参考にして、学長が判断し、8人に絞るわけです。

福田 もしジュリアードに入れたとしたら、どの位送り方をすればいいのでしょうか。

L. 大体授業料は1年で2千5、6百ドル、それに1ヶ月ぎりぎり生活してみても、350から400ドル位かかります。しかし優秀な方には奨学資金が出ます。特に遠くからの方には出やすいですね。

福田 今日は本当に素晴らしい演奏とお話をありがとうございました。